１００８０４

宮本博司

安威川治水手法についての意見

＊様々な規模の洪水時にどのような危険性があるのかをきっちりと示したうえで、住民の命を守ることを最優先に、従来のダムで貯め、残りの洪水を川に押し込めるという治水手法から、土地利用や家屋の建て方まで含め流域全体で洪水を凌ぐという新たな治水方策への転換を図るという基本的考え方で新たな河川整備計画を策定しようとしてきたにも関わらず、「全川にわたって氾濫が生じるため、困難」、「現時点では困難」、「手法が確立されていない」等の表現で、新たな対策手法を門前払いし、あるいは「今後検討をすすめる」として実質的に今回の整備計画に位置付けようとしないのでは、まったく従来の「ダムで貯め、川に押し込める」治水手法を踏襲するしかありえない。結果的に安威川ダムを計画に位置づけるか否かとは別に、住民の命を守るために、新たな方策も含めて、何ができるのかということを現地の状況を確認しながらきめ細かに検討するべきである。このような観点から提示された手法について以下、意見を述べる。

９　耐越水堤防

・「現状では、技術的に困難」な根拠が以下のような点を踏まえて示されていないため、二次選定手法から外す理由が不明。

＊高さ１ｍの堤防でも、越水に対して破壊しない構造にすることはできないのか？「技術的に困難」とは何ｍ以上の堤防を対象としているのか？

＊遊水地の越流堤は耐越水堤防ではないのか？

＊極端に言えば、堤防をコンクリートで置き換えれば、重力式ダムが越水しても破壊しないと同様に、ある程度の越水に耐えられることは明快である。耐越水堤防は「技術的に困難」ではなく、コストの問題ではないのか？

１０　決壊しづらい堤防

・「堤防満杯規模の洪水時を対象にした安全性の照査が必要」とあるが、計画高水位においてどのような安全性の照査を行っているのかを示し、計画高水位以上の水位に対して同様の照査を行った結果を示したうえで、さらにどのような照査が必要であるかが示されていないため、二次選定手法から外す理由が不明。

１２　排水機場

・８０ｍｍ、９０ｍｍ降雨時における内水浸水解析結果が示されていないので、内水対策として排水機場の必要性が不明であり、二次選定手法から外す理由が不明。

１６　遊水機能を有する土地の保全

・３で遊水地の実現性があるとしているにもかかわらず、遊水機能を有する土地の保全が実現性がないとしている理由が不明。

１７　部分的に低い堤防の存置

・３の遊水地において部分的に低い堤防（越流堤）設置を想定しているにもかかわらず、部分的に低い堤防の存置の実現性がないとしている理由が不明。

１９、２０　輪中堤、二線堤

・危険度Ⅲの分布は全流域にわたって広がっておらず、局所的である。危険度Ⅲ地域を回避するために、輪中堤、二線堤が有効な場合もあると考えるが、二次選定手法から外す理由が不明。

２２　宅地の嵩上げ等

・現行制度では不可能であり、そのためにどのような法整備が必要であるのか不明。

・対策効果の定量評価が困難な理由が不明

２３　土地利用規制

・現行制度では不可能であり、そのためにどのような法整備が必要であるのか不明。

・対策効果の定量評価が困難な理由が不明